

アスファルトプラント火入れ式 阪和道御坊舗装に着手

災害時に命つなぐ希望の道を

NEXCOWest日本が発注した「阪和自動車道御坊舗装工事」を施工する大成ロテックは13日、和歌山県印南町でアスファルトプラントの火入れ式を開いた。工事の安全を願い、大成ロテック関西支社の

大成ロテック

西村純一郎阪和自動車道御坊舗装工事事務所所長とNEXCOWest日本関西支社の北川誠和歌山工事事務所所長、同町の日裏勝己町長、嵩寿樹御坊労働基準監督署長、小西威寿日高広域消防事務組合消防本部消防長が火入れの儀を行った。



左から北川所長、嵩壽長、日裏町長、小西消防長、西村所長

神事の後、日裏町長は「点火ボタンを押した時、体の奥底から熱い思いがこみ上げた。4車線化事業によって、阪和自動車道は災害時に命をつなぐ希望の道となるため、町民が期待している」とあいさつした。

北川所長は「湯浅御坊道路と合わせて21年内の完成を目指し、着実な進捗を図る。完成すれば災害時に一部対面通行とすることで命の道の機能強化につながるほか、和歌山と関西の発展に貢献できる」と語った。

大成ロテックの西田義則社長は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言により、ビデオメッセージを寄せ、「熊野古道の紀伊路となる由緒ある土地で工事を任されたことは光栄であると同時に身の引き締まる思いだ。長年培った技術と施工能力を生かし、万全の体制で工事に臨む」と意気込みを示した。

プラントは同日に完成。6月から12月まで稼働する。総出荷量は3万トを見込む。式典後、西村所長は「厳しい工程だが、県民の期待も大きい。無事故・無災害で完成させると述べた。

工事は阪和自動車道御坊IC～印南IC間の4車線化事



6月から12月まで稼働

業に伴う舗装工事となる。概要は工事延長9099㍍、アスファルト舗装6万5000平方㍍、切盛土工2000立方㍍ほか。工期は2022年6月13日まで。工事場所は和歌山県御坊市野口～印南町大字山口。